

特集

ライターSのおしごとインタビュー③

「治療経験を生かし患者さんと向き合う」

2007年に治療を開始、その後ひるま矯正歯科で歯科衛生士として勤務されている會澤悠さんにインタビューを行いました。全文はホームページをご覧ください。



— 矯正治療を始めようと思っただけは？

◆ 反対咬合で小さい頃から顎が出ていたのがとてもイヤでした。姉ふたりも矯正治療をしていて、私も：と言われていたのですが、姉たちの治療を見ていて、装置は目立つし痛そうで先延ばしにしていたんです。でも歯に興味はあって、進学する時に歯科衛生士の学校を選びました。そうしたら歯医者にいる人が歯並びが悪かったらイヤだなと思うようになって、矯正しようとして決めました。

— ひるま矯正歯科を選んだのはなぜですか？



◆ 最初は、下北沢の矯正歯科に行っていたんです。ほとんど「下北沢」への憧れだけで(笑)。そこで外科手術が必要な症例だと言われて。その医院では手術ができないので、ひるま矯正歯科を紹介してもらいました。検査をすると、とても難しい症例だけれど手術をしなくても治ると思うよと院長先生が言ってくれたので手術はせずに治療することに決めました。

— 治療は大変でしたか？

◆ ワイヤ調整のあとは一週間ぐらい本当に痛いのですが、私の場合は医院のスタッフで矯正治療をしている人たちがいたから励みになったし、患者さんからお豆腐を噛むのも痛いですが、ね？と、経験談を話して共感し合えるので良かったです。

— ひるま矯正歯科に歯科衛生士として勤務するようになった経緯は？

◆ 治療中に、院長先生から「就職先は決まったの？」これも募集しているよ」と言われ、気がついたら医院の説明を受けていました。スタッフは皆さん本当にいい人ばかりで就職して良かった。働きやすい環境に恵まれて感謝しています。

— 歯科衛生士の一番大事な仕事は？

◆ 私のまわりの人たちは一時的に出っ歯になったり隙間があいたりしている治療途中の私を見て、本当に治るの？と心配していました。そんな時、私は知識があるので自信を持って「大丈夫。きちんと治るから！」と言えましたが、患者さんもそんなふうになんか安心して治療を受けてもらえるよう手助けすることだと思います。

衛生士の仕事に真剣に取り組んでいる會澤さん。患者さんの気持ちにわかる衛生士さんっていいですね。復帰を待ってます！(S)

ありがとう

ごちやうさいました!



ひるま矯正歯科
歯科衛生士
會澤 悠

ひるま矯正歯科に就職して2年。他の医院では2年目でこんなに多くの経験を積むことはできなかったと思います。担当衛生士制というシステムは、その場限りでなく担当の患者さんの健康について責任を持って取り組むということ。患者さんへの対応でダメだと感じる部分があれば反省し、改善していく...この繰り返しなのが、学ぶことは多かったです。先輩衛生士さんとの差を埋めなければと一所懸命やってきました。まだまだありがとうございます！

會澤さんの症状について解説します

● 初診時の診断：叢生と早期接触を伴う反対咬合
外科手術による下顎の後退と矯正治療単独による治療方針のポスターケースでしたが、早期接触の改善により下顎の前突感がある程度改善可能であると予想した事、外科手術では侵襲が大きく下顎骨が後退しすぎる可能性がある事を考慮し、矯正治療単独による方針で治療開始。抜歯は上下顎左右第1小臼歯と上顎左側第3大臼歯。動的治療期間は30ヵ月と予想したが、実際は27.4ヵ月でした。

現在、下顎の前突感、口唇の突出感が改善。今後は約2年間の保定観察を行うが、上顎前歯の保定装置は半永久的に固定する必要があります。歯が磨きにくくなってしまいますので定期的なメンテナンスが必須となります。



<初診時> <動的治療開始時> <動的治療終了時>